

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 2年 6月 22日

兵庫県知事 殿

提出者

住所 兵庫県宍粟市山崎町鹿沢93番地

氏名 公立宍粟総合病院

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0790-62-2410

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	公立宍粟総合病院
事業場の所在地	兵庫県宍粟市山崎町鹿沢93番地
計画期間	令和2年4月1日から令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項 <b>別紙1, 2のとおり</b>	
①事業の種類	医療業
②事業の規模	199床
③従業員数	255名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	特別産業廃棄物責任者 井上達也 委託処理 委託業者 株式会社 衛生センター

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		別紙1, 2のとおり	
(管理体制図)			

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 **別紙1, 2のとおり**

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

**別紙1, 2のとおり**

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】 別紙1, 2のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

現状：前年度(令和〇×年度)実績量

計画：今年度(令和〇〇年度)計画量

単位:トン/年

産業廃棄物の種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項									
	排出量 (前年度実績値の①)		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の②+⑧)		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑤)		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑦)		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の③+⑨)		全処理委託量 (前年度実績値の⑩)		優良認定処理業者への処理委託量 (前年度実績値の⑪)		再生利用業者への処理委託量 (前年度実績値の⑫)		認定熱回収業者への処理委託量 (前年度実績値の⑬)		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (前年度実績値の⑭)	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
0100燃え殻																				
0200汚泥																				
0300廃油	150	150	0	0	0	0	0	0	0	0	150	150	0	0	150	150	0	0	0	0
0400廃酸																				
0500廃アルカリ	150	150	0	0	0	0	0	0	0	0	150	150	0	0	0	0	0	0	0	0
0600廃プラスチック類	300	200	0	0	0	0	0	0	0	0	300	200	0	0	200	100	0	100	0	0
0700紙くず	400	200	0	0	0	0	0	0	0	0	400	200	0	0	300	200	0	0	100	0
0800木くず																				
0900繊維くず																				
1000動植物性残渣																				
1100ゴムくず																				
1200金属くず																				
1300ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず																				
1400鉱さい																				
1500がれき類																				
1600動物のふん尿																				
1700動物の死体																				
1800ばいじん																				
合計	1000	700	0	0	0	0	0	0	0	0	1000	700	0	0	650	450	0	100	100	0

実績・目標量は、t(トン)単位で記入してください。

品目は適宜追加してください。

別紙2 (廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

1 当該事業場において行っている事業に関する事項

①事業の種類	1449 その他の紙加工品製造業
②事業の規模	製造品出荷額 36,000万円 (平成27年度実績)
③従業員数	300人 (平成28年1月時点)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙3のとおり

日本標準産業分類(平成25年10月改定)の分類(4桁コードと小分類名)を記入してください。

2 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図等, 別紙3を参照)

3 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 工程立ち上げ時のロスを軽減することで、不良品量を削減し、廃棄物発生量を平成23年度に比較し平成27年度には5%削減した。
②計画	(今後実施する予定の取組) 今年度中頃に、生産工程を見直すことで、プラスチック端材の発生量を抑制する。 紙くずについて、分別を徹底し、有価売却できるものを増やすことで廃棄物発生量を削減する。

4 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工場内の保管場所を紙くず、廃プラスチック、紙・プラ混合廃棄物の3区画に分け、各部署からの廃棄物を分別して保管している。
②計画	(今後、分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工程ごとに、紙くず3種類、廃プラスチック2種類、紙・プラ混合物の計6種類の分別回収箱を設置し、発生場所での分別を進める。



5 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 特になし。
②計画	(今後実施する予定の取組) 特になし。

6 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 特になし。
②計画	(今後実施する予定の取組) 特になし。

7 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

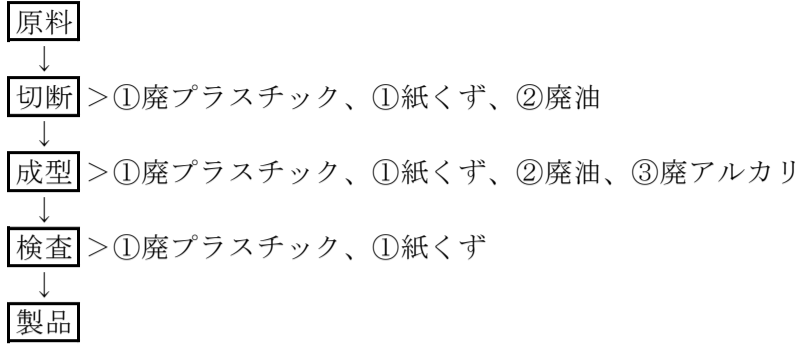
①現状	(これまでに実施した取組) 特になし。
②計画	(今後実施する予定の取組) 特になし。

8 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 可能な限り R P F 製造業者への排出を行い、排出廃棄物のリサイクルを推進してきた。
②計画	(今後実施する予定の取組) 引き続き R P F 製造業者への排出を行い、排出廃棄物のリサイクルを推進する。 また、焼却処分している廃プラスチックについて、認定熱回収業者へ委託を変更することで、サーマルリサイクルに貢献する。

(別紙3)

○ 産業廃棄物の一連の処理の工程



- ①廃プラスチック、紙くず、廃プラ・紙くず混合物  
収集運搬<委託：△△運輸>→破碎・圧縮成型<委託：△△クリーン>  
→RPFとして販売
- ③廃油  
収集運搬<委託：△△運輸>→焼却<委託：△△クリーン>  
→焼却残さは管理型処分場に埋立処分<委託：△△興業>
- ②廃アルカリ  
収集運搬<委託：□□産業>→中和<委託：□□産業>  
→中和処理後は下水道放流。  
中和残さは焼却し、管理型処分場に埋立処分<委託：△△興業>

○管理体制図

